薬用植物園だより

2025年 7月

良質の日本産生薬だった → 絶滅危惧へ

ミシマサイコ （セリ科）

Bupleurum falcatum Linné

部位	根
生薬名	柴胡（サイコ） 局方収載
成分	サイコサポニン a、d（トリテルペンサポニン） その他、ポリアセチレン類、クマリン類など
薬理	抗炎症作用、肝保護作用、抗ストレス作用
薬能	清熱薬、疏肝（そかん）
漢方	小柴胡湯、柴胡桂枝湯、補中益気湯など

本州、四国、九州、および朝鮮半島に分布する多年草。日本では、主に太平洋側の石灰岩地帯に自生していましたが、草原の減少や乱獲などにより急激に数を減らし、環境省第5次レッドデータブック(2025)では絶滅危惧II類(VU)に指定されています。「柴胡」は漢方薬に使用する重要な生薬として渡来した時の中国名で、「柴」は訓読みの「シバ」とは読まず、音読みの「サイ」で「サイコ」と呼びます。江戸時代には全国から産出され、静岡県の三島に集荷されたものが特に良質であったため、ミシマサイコまたはカマクラサイコと呼ばれていたことが和名の由来になっています。漢方薬の小柴胡湯は、副作用として間質性肺炎に注意が必要で、特に肝硬変または肝癌のある患者への使用およびインターフェロン製剤との併用が禁忌となっています。原因成分の特定には至っておらず、柴胡との組み合わせが多い黄芩という生薬の研究が進められています。

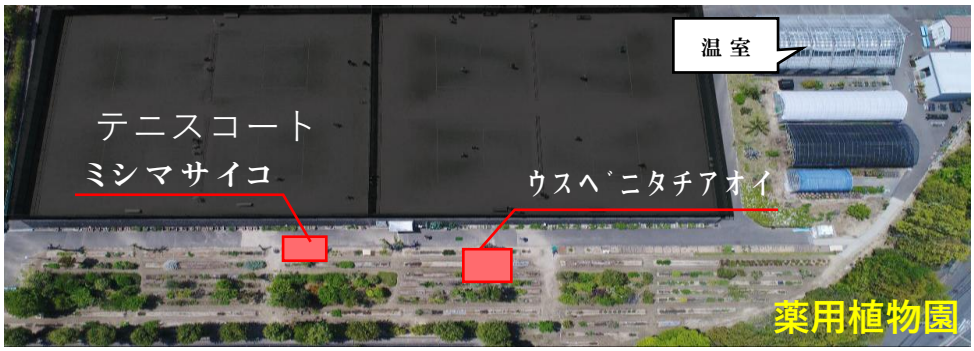
ウスベニタチアオイ （アオイ科）

本物のマシュマロを食べてみたい！

Althaea officinalis L.

部位	根
生薬名	アルテア根
成分	デンプン、粘液質（アラビタン、ガラクタンなど） タンニン類、クマリン類など
薬理	鎮咳作用、抗菌作用、抗酸化作用、創傷治癒作用
用途	うがい薬、化粧品原料、菓子原料

東ヨーロッパ原産の多年草。ヨーロッパと西アジアでは、薬用および食用として長い歴史を持っています。属名の*Althaea*が「治癒する」というギリシャ語に由来していることからも重要な薬草であったことが予想できます。一方、本植物の英名は、マーシュ・マロー（Marsh mallow）で、この根のでんぷんを原料に「マシュマロ」というお菓子が作られていました。フランスでは、Guimauve ギモーヴという菓子にあたります。現在では、どちらもゼラチンや卵白から作られています。葉や根には多糖成分が多く含まれており、鎮咳、抗菌、抗ウイルス、抗真菌、そして創傷治癒促進作用を持つことからハーブを用いた医療用マウスウオッシュの開発もあるようです。



ホームページでも
ご覧いただけます